

スタートアップ部門 まちづくり活動計画書

1 助成を受けようとするまちづくり活動について

団 体 名	緑区片平学区子育て支援ネットワーク連絡会
まちづくり 活 動 名	片平学区・多世代交流の場づくり
活 動 地 域	名古屋市緑区片平学区
活 動 の 背 景	（団体の立上げのきっかけや活動に至る背景をアピールしてください。） 令和元年度に片平学区連絡協議会が中心となり、「片平学区子育て支援マップ」（添付資料参照）を作成した。学区内にある子育て支援団体（幼稚園、保育園、学童保育所、トワイライトスクール、地域型保育事業所、NPO法人など）をマップにし、事業内容を紹介したものである。子育て支援マップを関係各所に配布し、団体同士の連携・つながりづくりを期待したが、具体的なアクションにはつながっていない。 片平学区では、地域に居住する児童数は減少していないものの、子ども会が徐々に減少している。子ども会の運営にかかる負担の増加がその要因である。大人の事情で子どもの活動が制限されてしまう現状を少しでも改善するために、他の団体で協力し補完し合うことができないかと考えた。 令和元年12月に、片平学区連絡協議会の会長とNPO法人かたひらかたろうの小林代表が中心となり、設立準備委員会を創設した。学区内にある子ども・子育て支援団体をはじめ緑区役所、緑区社会福祉協議会等に声をかけ、子ども・子育て支援団体をつなぐ連絡会創設についての賛同を得た。 令和2年2月に、会の趣旨に賛同した団体の代表者19名で、集会を開催した。団体名を「片平学区子育て支援ネットワーク連絡会」とし、代表に小林氏が就任することが承認された。この集会では、団体が協力して取り組みたいことや片平学区のありたい未来の姿など、たくさんのアイデアが出された。（別紙参照） これらのアイデアを基に計画に沿った活動を進めるとともに、子ども・子育てに関する情報を共有しながら、団体相互の関係性を深めていく。活動を通じて、片平学区の地域コミュニティの活性化をはかる予定である。
	（活動の目的と、活動により実現したい目標及び成果を具体的かつ簡潔にご記入ください。） ■ 目的：片平学区内にある子ども・子育ての支援団体が連携し、子どもたちの健全な育成支援と子育て環境の整備・拡充のための活動を行なう。また、このような活動を通じて、地域コミュニティの活性化を図る。 ■ 目標：連絡会に所属するそれぞれの支援団体ができることや強みを生かし、互いに連携をはかりながら、片平学区の子ども・子育ての課題解決に共同で取り組むこと。 当団体が実施している活動が、学区全体に認知され、賛同者を増やし、学区全体で子どもを育む土壌ができること。 ■ 成果：団体の活動をきっかけに、つながりが緩やかに広がり、さまざまな活動が開始されること。日常の業務においても情報交換や合同でイベントを開催するなど、助け合い・支え合いの風土が醸成されること。

活 動 内 容	(上記の目的、目標に沿って、活動内容や実施方法を、具体的かつ簡潔にご記入ください。) 【活動内容・実施方法】 ■連携・協働のための活動 総会や定例会などの機会、互いの現状（特に困っていることや協力して欲しいこと等）を出し合う場を提供する。協力できることや情報提供できること等を話し合い、各々の強みを生かす。 ■連絡会の定例会・学習会の開催（場所：片平小学校・会議室） ・連絡会の定例会を開催し、それぞれの団体の近況報告や地域の子どものめぐる課題や社会状況などの情報共有をする。 ・地域の中で関連するイベント情報を共有し、必要に応じて協力・応援態勢をとれるようにする。 ・会員からの希望を聞きながら、子どもの問題（たとえば子どもの人権、児童虐待のない社会にするには...等）有識者や専門家を招いて勉強会を開催する。 ■季節行事、イベントの開催 ・2020年度は、コロナウイルス感染拡大予防のため、大規模なイベントの開催は不可能であると考え、対策を十分にとりながら、夏休みや冬休みを利用して、イベントを開催したいと考えている。（現在、親子を対象とした「認知症ケア講座」の開催を検討している） ■広報活動 ・子育てマップに掲載されている団体だけでなく、子ども・子育てに関心がある人、子ども向けのレクリエーション活動をしている人など、地域の住民にも積極的に声をかけ、仲間になってもらう。 ・将来的には、SNSへの掲載やホームページの作成も検討する。	
活 動 予 定 期	2020 年 7 月 ～ 2021 年 3 月	
助 成 金 交 付 申 請 額	50,000 円	※1 回目（上限 5 万円） ※2 回目、3 回目（上限 10 万円）

2 まちづくり活動の視点

以下の視点で活動内容についてご記入ください。

審査基準① 必要性	・地域に根ざしたまちづくり活動内容か ・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か ・活動の実施にあたって、まちづくり活動助成金が必要な活動か ・活動メンバーのみの趣味や仲間づくりではなく、多くの人に理解や共感が得られる活動か
(活動の必要性について、上記観点から分かりやすくご記入下さい。) ・活動地域を緑区片平学区とその周辺地域に限定している。学区連絡協議会と子ども・子育てに関連する各団体と連携をとりながら、活動を行っていく。 ・活動の切り口は子ども・子育てであるが、目標とするところは、地域とのつながりづくりである。地域の人びとにあたたく見守られながら成長し、地域に愛着をもち、いつか地域に貢献する大人になることを目指し、片平学区の多世代の住民を巻き込んだ活動にしていく。 ・団体の自立的な運営基盤を強化し、活動を展開するために、住民特に子育て世代に会の活動を知ってもらい、活動の参加者や協力者を増やす必要がある。広報活動(ポスターの貼付、チラシ配布、イベントの開催など)の強化・拡大は欠かせない。 ・団体ができて間もなく、通信費や消耗品費は会員の寄付金で賄っている。経済的な面でも自立的・持続的な活動をするために、助成金が必要である。	

審査基準② 実現性	・活動内容が具体的になっているか ・活動内容の資金計画などは妥当か ・人員や規模などは妥当か
(活動の実現性について、上記観点から分かりやすくご記入下さい。) ・定例会における団体同士の情報共有と、会員のニーズに即した勉強会の開催などを通して、会の運営や活動計画などを話し合う体制ができている。また、年 2 回程度、子ども子育て世代を対象に予定しているイベントの開催により、団体同士の関係づくりと連携体制の強化と維持をもねらいとしている。 ・参加者の中には学区連絡協議会の役員がおり、地域で連携・協力できる体制がある。 ・現在、会員は 20 名程度である。会の運営方針の検討、イベントの企画運営、広報担当などの役割を分け、組織の基盤強化を図る。	
審査基準③ 発展性	・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか ・活動実施後に、地域のまちづくり活動にどのような波及効果を及ぼせるか
(活動の発展性について、上記観点から分かりやすくご記入ください。) ・老人クラブや女性会などの地域団体にも声をかけ、子ども会や学童保育所などが行うイベントへの参加・協力を促進し、住民が持っているさまざまな能力やスキルをコミュニティの中で生かし合うことができる仕組みを検討する。地域共生社会の構築の一助となることを期待する。 ・片平学区周辺にある公園を活用した子ども遊び場（プレーパーク）を検討する。 ・災害などの緊急時の共助を可能にするためには、普段からの住民同士の関係づくりが不可欠である。地域の防災訓練には現状ではあまり参加していない層である、子ども・子育て世代にも関心をもってもらえるような防災訓練等の方法を検討する。他地域で実践している事例を研究し、定例会等でアイデアを出す。 ・多世代交流を図るイベントとして、「かたひら文化祭（仮）」の開催を検討する（今年度は企画段階で来年度開催を目指す）。乳幼児からお年寄りまで、多世代が一堂に会し、遊びやゲーム、食事作りや語らいの場などを設け、1 日楽しく過ごすイベントである。運営に小中学生も入れることで、地域とのつながりの形成、リーダーシップの育成を目指す。	

3 活動にあたり他団体（町内会、自治会他）、企業、行政の部署など協力する又は調整を図る必要がある場合には、その名称と内容を記入してください。既に連絡等を取っている場合にはその日付も記入してください。

名 称	内 容
・片平学区連絡協議会 ・片平学区民生児童委員協議会 ・緑区保健センター保健予防課 ・緑区役所福祉部民生子ども課 ・緑区社会福祉協議会 ・みどり子育て応援団 ・子ども NPO ・名古屋市コミュニティサポーター	・2019 年 12 月に、左に挙げた団体に会が発足することを連絡し、今後の活動への参加協力を要請した。 ・今後、連絡会が行う会合（総会、定例会）やイベントの際には、広報への協力と必要に応じて助言をいただくように依頼している。

※第 2 号様式は 3 ページ以内でご記入ください。用紙の大きさは、日本工業規格 A 4 とする。

まちづくり活動の実施スケジュール

・活動の実施日だけでなく、それに向けた準備（団体の打合せ、広報）についても具体的に記入してください。

・1ページにおさまるように記入してください。

年	月	活動項目	活動内容
2020	4		
	5		
	6		
	7		
	8	総会	・会の方針・方向性を決める ・以前の意見交換で出された「活動のアイデア」を実現可能なものにする
		親子で学ぶ「認知症ケア」講座	・「認知症にやさしいまちづくり」の一環として開催。 ・コロナや熱中症対策も含めた内容。
	9	情報交換会 （ワークショップ形式）	各団体が行っている活動を知り、互いにどのような場面で協働することが可能か意見交換する。連携を深める。
	10	定例会	クリスマス企画の内容を検討
2021	11	学習会 （話題提供＋対話）	・連絡会会員向け学習会 ・片平学区の子ども・子育てをめぐる課題に即したテーマを選定して実施。
	12	クリスマス企画	多世代で緩やかにコミュニケーションをはかる、ふれあいの場の提供。
	1	子どもの人権講演会	子どもの人権に関する有識者を招き、講演会（または研修会）を開催。会員だけでなく、住民を集めて開催。
2021	2	活動のふりかえり 活動報告の作成	・今年度の活動に関する評価を実施する。 ・今年度の活動報告書を作成する。
	3	次年度の計画	次年度の活動について、各団体の思いを聞きながら計画策定をする。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

まちづくり活動の予算書

1 支出

計画書の活動における支出（予算）をご記入ください。

費 目 手引きの費目を参照		活動項目	内訳・算出根拠	金 額 (円)
まちづくり活動助成金（申請金額） ※活動経費の内、助成対象となる経費が対象です。 ※上限金額：1 回目は 5 万円、2 回目、3 回目は 10 万円				50,000
活動経費の内訳	消耗品費	定例会、勉強会等	コピー用紙、封筒、文房具類など事務用品	8,000
	通信費	広報活動	議事録やチラシなどの発送 (団体会員 20 名と関係機関)	10,000
	印刷費	勉強会、講演会	チラシ、配布資料印刷	15,000
	謝金	子どもの人権講演会 講演	講師 1 名 交通費	10,000 2,000
	賃借費	講演会会場	会場利用料	5,000
支出合計				50,000 円

※ 1 ページにおさまるよう記入してください。用紙の大きさは、日本工業規格 A4 とする。